

I 第44週の発生動向 (2014/10/27~11/2)

1. インフルエンザについては、東地方+青森市保健所管内で今シーズンの初発患者4人の報告があり、迅速診断キットによる型別はいずれもB型でした。今後の発生動向に注意が必要です。
2. 感染性胃腸炎については、患者報告数が前週の139人から123人に減少しました。
3. 水痘については、むつ保健所管内で第41週から**注意報**が継続しています。

II 第44週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 内科 (90) インフルエンザ	4	0.3											4	0.1	4			4	0.3
(79) RSウイルス感染症	7	0.9	2	0.2	3	0.3	2	0.4	5	0.8	2	0.5	21	0.5	1			7	0.9
(80) 咽頭結膜熱			25	2.8	2	0.2			1	0.2			28	0.7	3				
(81) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.4	6	0.7	9	0.9	3	0.6	2	0.3	1	0.3	24	0.6	-4			3	0.4
(82) 感染性胃腸炎	53	6.6	8	0.9	34	3.4	2	0.4	6	1.0	20	5.0	123	2.9	-16			53	6.6
(83) 水痘	5	0.6	5	0.6	3	0.3	1	0.2	16	2.7	23	5.8	53	1.3	10			5	0.6
(84) 手足口病	4	0.5	5	0.6					1	0.2			10	0.2	-8			4	0.5
(85) 伝染性紅斑	2	0.3	1	0.1	11	1.1			1	0.2			15	0.4	2			2	0.3
(86) 突発性発しん	4	0.5	1	0.1	4	0.4	2	0.4					11	0.3	-16			4	0.5
(87) 百日咳									2	0.3			2	0.1	2				
(88) ヘルパンギーナ									1	0.2			1	0.0	-4				
(89) 流行性耳下腺炎	1	0.1			1	0.1	1	0.2					3	0.1	2			1	0.1
眼科 (91) 急性出血性結膜炎															0				
(92) 流行性角結膜炎	2	1.0	1	0.3	1	0.5			2	1.0			6	0.6	4			2	1.0
基幹 (97) クラミジア肺炎															0				
(98) 細菌性髄膜炎															0				
(100) マイコプラズマ肺炎					2	2.0					1	1.0	3	0.5	-1				
(101) 無菌性髄膜炎															0				
(82) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)					1	1.0							1	0.2	1				

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- ・結核(二類全数把握疾患): 東地方+青森1人、八戸1人、五所川原1人、上十三1人(2014年計:324人)

IV 病原体検出情報 ※ ()内は、検査材料及び検体採取日、検出数です。

- ・ヘルパンギーナ患者(咽頭ぬぐい液、8/20)・・・コクサッキーウイルスA10型:弘前(1)
- ・無菌性髄膜炎患者(髄液、7/31~9/3)・・・エコーウイルス30型:弘前(1)、五所川原(2)
- ・その他の患者(咽頭ぬぐい液、9/26)・・・ヒトライノウイルスA:八戸(1)

感染症の窓

レプトスピラ症(四類全数把握疾患)

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラ(*Leptospira interrogans* など)による人獣共通感染症であり、多様な症状を示す急性の熱性疾患です。

通常、ヒトからヒトへの直接感染はなく、ネズミ、イヌ、ウシ、ウマ、ブタなどの保菌動物の尿、あるいは尿で汚染された水や土壌との接触(経皮感染)、あるいは汚染された飲食物の摂取(経口感染)によりヒトに感染します。

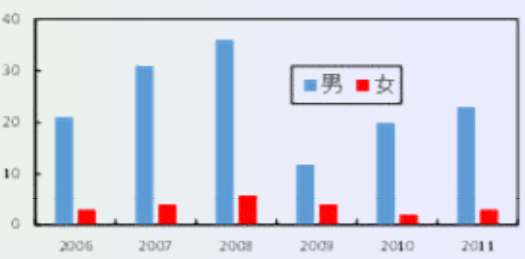
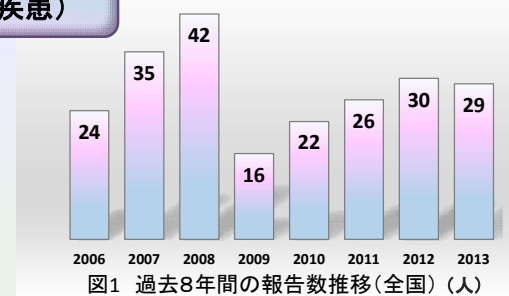
感染して5~14日の潜伏期間後、発熱、悪寒、頭痛、筋痛、結膜充血などの初期症状があらわれます。重症型の場合は、黄疸、出血、腎不全などの症状が見られます。

全国における患者報告数は、2006年以降、16~42人で推移していますが(図1)、今年(第39週現在)で24人の報告があります。過去8年間において、性別では224人中198人と約9割が男性でした(図2)。散發的な発生は全国各地で認められており、特に沖縄県では全国の中でも多くの患者数が報告されています。国外では、東南アジア、中南米などの熱帯地域で大規模な流行が見られます。

2003年の感染症法の改正によりレプトスピラ症が感染症発生動向調査の4類感染症として位置づけられて以降、青森県内においては今年(第40週(H26年10月))に1件の患者報告がありました。

なお、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページでは、さらに詳しい情報を掲載しています。

(http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_012/k03_012.html)



V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第28週～第44週）

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
28	H26.7.7 ~ H26.7.13			腸管出血性大腸菌感染症1人			
29	H26.7.14 ~ H26.7.20	A型肝炎1人 クロイツフェルト・ヤコブ病1人	E型肝炎1人				
30	H26.7.21 ~ H26.7.27						
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	後天性免疫不全症候群1人 梅毒1人		腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症2人	
32	H26.8.4 ~ H26.8.10	A型肝炎1人 レジオネラ症1人					
33	H26.8.11 ~ H26.8.17	腸管出血性大腸菌感染症4人					
34	H26.8.18 ~ H26.8.24			腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 後天性免疫不全症候群1人	
35	H26.8.25 ~ H26.8.31						
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	デング熱1人	腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症1人	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14					腸管出血性大腸菌感染症1人	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21						
39	H26.9.22 ~ H26.9.28					腸管出血性大腸菌感染症1人	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5		レプトスピラ症1人			腸管出血性大腸菌感染症2人	
41	H26.10.6 ~ H26.10.12			カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人			
42	H26.10.13 ~ H26.10.19			つつが虫病1人 カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人 ジアルジア症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	
43	H26.10.20 ~ H26.10.26		急性脳炎1人				
44	H26.10.27 ~ H26.11.2						

VI 結核(二類全数把握疾患) (2014年第34週～第44週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
34	H26.8.18 ~ H26.8.24	2	2	6	1		
35	H26.8.25 ~ H26.8.31	1	2	12	1	1	
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	1	5	3		1	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14	3	3	7	1	1	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21		1	4	1	1	
39	H26.9.22 ~ H26.9.28		1	3	1	2	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5	1	2	3			1
41	H26.10.6 ~ H26.10.12	2	6	4	1	1	
42	H26.10.13 ~ H26.10.19			3	1	2	
43	H26.10.20 ~ H26.10.26	2	2		2	3	
44	H26.10.27 ~ H26.11.2	1		1	1	1	

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2014年第1週～第42週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類		
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	回帰熱	Q熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	チクングア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	ブルセラ症	ポリオス症	マリア	野兔病	ライム病
累積報告数	20810	4	105	3641	48	15	113	410	15	8	1	1	1	56	10	119	315	197	2	10	1	53	1	11

分類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性心臓病	侵襲性肺炎球菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	水痘(入院例)	播種性クリプトコッカス症	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	985	34	897	196	374	85	140	217	1218	55	161	28	1361	9	1308	111	39	295	451	77	41	8	4

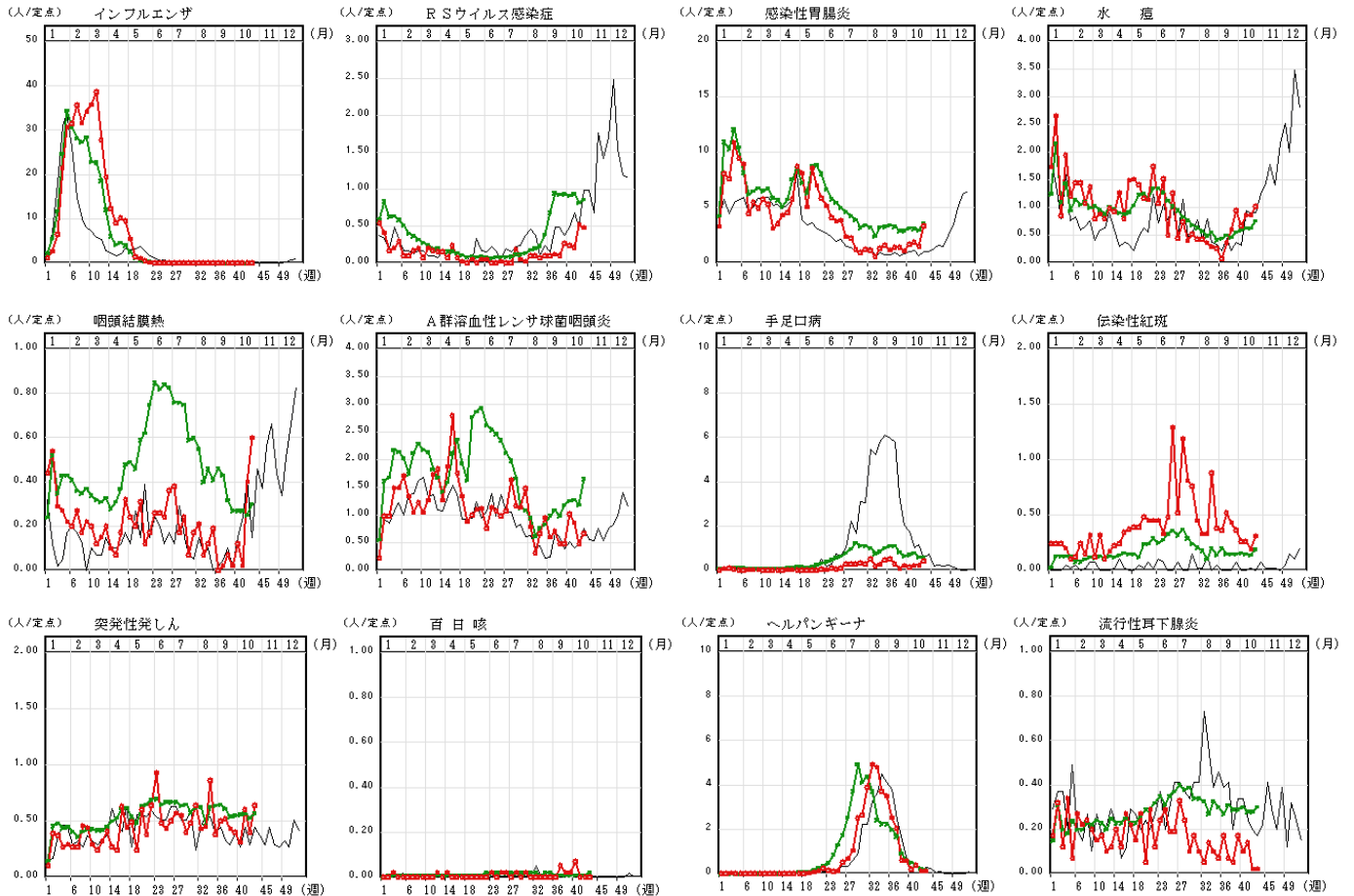
青森県

(2014年第1週～11月5日9:00累計)

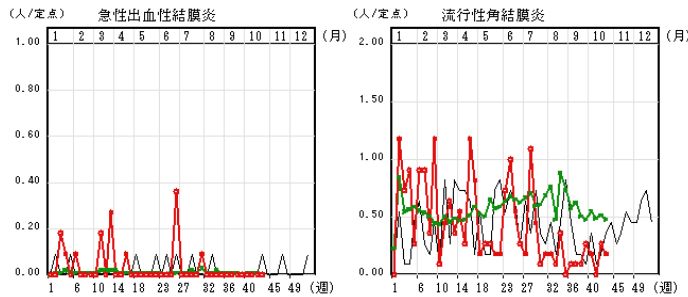
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性心臓病	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	
累積報告数	324	19	2	3	11	1	3	1	6	9	1	1	4	1	1	6	4	1	2	

VIII インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第43週)

グラフの説明 ○—○は2014年青森県、——は2013年青森県、 ×—×は2014年全国



IX 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第43週)



X 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第43週)

